

于盂蘭盆会と施餓鬼会

今回も前回に引き続いて、お盆の施餓鬼会について考えてまいりたいと存じます。もともとお盆と言う言葉は盂蘭盆から来ていられると言われます。そして盂蘭盆会と言う法要も独立したものとして浄土宗でも取り決めてありますが、当山松林寺でも、また、多くの寺院も盂蘭盆大施餓鬼会を修しているのが今日のお盆の姿です。さて、もう少し詳しく見てまいりますと、さらに水陸会という法要も兼ねていることに気が付きます。この水陸会とは聞きなれない法要ですが、これは流行病を運ぶ疫鬼、疱瘡を流行させる瘟鬼などの悪鬼精霊が陰湿な場所、特に水に近い場所に棲むと考えられており、また、溺死者の多い川や池にも水鬼がいると考えられますので、これらの悪鬼を水上や陸上から供物を投げてなだめ、水辺より発する疫病・災害を取り除こうとしたものです。当山でも施餓鬼会の終了後本堂の外に設えた餓鬼棚に供えた御飯を近くの池まで持って行き、池の中の悪鬼に供養しております。もつとも私が幼い頃なぜ御飯を池に流すのかとたずねたところ、魚に施すと言われた思い出がありますので、放生会の要素もあるかも知れません。

ところで、施餓鬼会については前回触れましたが、先程述べました本堂の外の帰るべき家のない霊・無縁の霊など三界万霊を祠った餓鬼棚で餓鬼に水手向けをし、施しをしている訳です。そして、施餓鬼を修することによって御回向された皆様の福德・長寿が得られることともなる訳です。また、本堂の中の外陣に施餓鬼壇を設け五如来をお祠りして盂蘭盆会の趣旨である皆様の初盆の新仏や御先祖様の御供養をして追善の菩提を弔っている訳です。

このように現在の施餓鬼会は、三つの法要の要素がひとつのものとなっておこなわれている訳です。これも長い間我々の祖先がお盆と言う正月と並ぶ最も大切な年中行事として守り続けて来た結果なのです。

さて、当山の施餓鬼会の変遷を考えてみますと昭和五十八年より八月九日にもどりました。それまでは十一日に変更されていた訳ですが、その理由は中山寺の星祭りとかち合うからというものでした。夕刻からの星祭りと午前中の施餓鬼会なら支障無いと言うことで昔に戻った訳ですが、考えてみれば、昔の施餓鬼会は夕刻より始めていたと言うことですので、十一日に変更していたことも納得のいくことではあります。今年からはお隣の小浜の法仙寺の施餓鬼会も七日の午後から八日の午前中へと変わり、昔ながらの施餓鬼会の姿がまた一つ少なくなりました。